

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - )

事業所番号	0670101674		
法人名	オーランドホーム株式会社		
事業所名	オーランドホーム株式会社南原町木洩れ陽		
所在地	山形市南原町三丁目11-1		
自己評価作成日	平成30年 10月 20日	開設年月日	平成 16年 8月 20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・慣れた生活を継続出来る様、一人ひとりに合った支援を行うことで利用者様はのんびりと和気あいあい一日を楽しく過ごすことができる家庭的な環境です。  
 ・年間を通して様々な行事、イベント、外出、外食等に参加することで楽しみある生活を送って頂ける様支援しております。  
 ・協力医の下、ターミナル・看取りまで支援させて頂いております。  
 ・デイサービス、短期利用の受け入れ体制を取っており、ご利用者様同士の交流を図ると共に、より多くの方にご利用いただいております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 11月 29日	評価結果決定日	平成 30年 12月 19日

「その人らしく、安らぎの場で、共に過ごし地域と交流」の事業所理念のもと、利用者は陽当たりの良いリビングで自分の出来る事を手伝いながら職員とも仲良く話をし、またゆったりとした気分で仲間達とくつろいでいます。地区の夏祭りなど、外に出て人々とふれあう楽しさや出店で買う食べ物のうまさを味わっています。職員は利用者が楽しめるよう、ボランティアの力を借りて花セラピーやハンドマッサージなど取り入れ、押し付けにならないよう気を付け、気持ちを察しながら一日を自分なりに過ごせるよう支援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>理念は見やすい場所に掲示し、意識しながら日々の生活を支援している。</li> <li>朝の申し送りや定期学習会の時に職員全員で唱和し共有している。</li> </ul>	理念は職員と共に作り事業所内に掲示し、利用者の気持ちを察しながら、その人の気持ちになって押し付けや教えるのではなく、のんびりとゆったりとした暮らしを実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内自治会に加入し、行事(夏祭、盆踊り、清掃)等への参加で交流を図っている。</li> <li>散歩に出かける際には地域の方々と積極的に挨拶や声掛けを行うように心がけている。</li> </ul>	利用者は、夏祭りや集会場での歌う会に参加し、出店で買い物をしたり、果物の差し入れを貰うなど楽しい時間を過ごしている。ボランティアも積極的に受け入れ、花セラピーやハンドマッサージなど良い刺激を受け、利用者も楽しみにして待っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営推進会議を通して認知症に対する理解の周知に努めている。</li> </ul>			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>2ヶ月に1回の運営推進会議で事業所での取組み、状況報告、要望を取り入れた会議を行い、サービスの向上に役立っている。</li> <li>議事録を回覧し職員が共有している。</li> </ul>	運営推進会議には近隣からも1名参加して貰い、利用状況報告の他その時々でテーマで話し合いをしている。会議での意見や地域の情報を利用者の暮らしに活かしサービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>月に1回介護相談員の訪問があり、ご利用者様の状況や活動の報告、運営推進会議の報告を行っている。</li> <li>年に1回の市役所での意見交換会に出席し協力関係を築けるようにしている。</li> </ul>	地域包括支援センター職員から運営推進会議に出席して貰い、事業所の取組み等への理解を得ており、福祉情報等やわからない点を聞くなど連携を保っている。市とは運営推進会議の報告や年一回の会議に出席し、意見交換するなど協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体拘束は行わない方針で、玄関に「身体拘束排除宣言」を表示してある。</li> <li>内部研修年間計画に組み入れ実施し、日々のケアに活かし虐待が見過ごされることの無いように努めている。</li> </ul>	身体拘束や虐待について毎月介護主任が中心となり、その時のテーマに沿って利用者の自由を安易に妨げる事が無いよう学んでいる。自由を守りながらも、リスクが伴う事もあることを家族等にも説明し、理解を得て夜間玄関には鍵センサーを利用し安全を確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期学習会で虐待防止について話し合い全職員で共有し、日々の業務に当たっている。</li> <li>傷、あざを見つけたら、気づいた時に申し送り等で話し合い、原因究明、予防に努めている。</li> </ul>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修内容について全職員に報告しているが、理解するまでに至らない。</li> <li>今後、活用される制度なので研修会等の参加学習会を積極的に行う。</li> </ul>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>契約時、解約時または改定時には時間を取り詳しく説明し、同意を得るように努めている。</li> <li>理解、納得が出来ない時には何度でも説明を行い不安、疑問にお答えしている。</li> </ul>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>面会時にご家族の意見や要望を引き出す努力をしている。</li> <li>運営推進会議に、ご家族代表で出席していただき意見を頂いている。</li> </ul>	<p>家族等との面会時に会話を通して、聞き取った意見や要望等を連絡ノートに記載し、職員同士の閲覧で共有を図っている。居室担当職員が家族等に利用者の様子等を知らせ、信頼と安心に繋げている。</p>	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>年2回、代表者との面談を実施することで、職員から率直な意見を聞く機会を設けている。</li> <li>職員の意見や提案を聞き、運営に反映させるようにしている。</li> </ul>		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表者との面談では職員の努力や実績を適切に評価している。</li> <li>職員がやりがいを持ち仕事出来る様に職場環境、条件の整備に努めている。</li> </ul>		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>外部研修に多く参加できるように配慮し、より多くの情報を伝える努力をしている。</li> <li>学びの場として内部研修は定期化している。</li> </ul>	<p>年間研修計画に基づき、身体拘束等についてのテーマを決めて毎月内部研修を行っている。グループホーム協議会の東北大会で職員が事例発表を行い、好評価を受けたことから本人の自信や他職員の共感と奮起に繋げている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・グループホーム連絡協議会の研修や交換研修を通じて、他事業所との交流を持つことによりケアの質の向上に努めている。	グループホーム協議会に加入し、研修や交流会に参加する事で職員の気付きも多くあり視野を広げている。他事業所との交換実習において交流の中から学びや気づきが得られ、振り返りながらケアの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・全職員が細かい配慮に勤め、本人の思いや家族の要望、不安を受け止め信頼関係作りに努め支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の困っていることや不安、要望を傾聴し、ご家族の思いを受け止め、今までの対応や介護に労いの言葉をかける。 ・本音で話せる関わりを持てるように努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ご本人、ご家族の思いや希望を聞き、同じ視点に立つことで支援できることを見極める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・人生の先輩であることを全職員が共有しており、時には助け合い、助言し合い、支え合いながら共に生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の思いに寄り添いながら、ご本人の思いをご家族に上手く伝えられるよう努力している。 ・面会時にはご本人、ご家族がゆっくり出来る様に配慮している。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入居前から利用している美容室へ行ったり、知人、親戚等の交流を継続出来るように支援している。 ・面会時には毎月のご利用者様の様子を月の便りや年4回発行する木洩れ陽便りをみていただき、また一緒に写真を撮るなどご本人とご家族への思いが途切れないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・生活の中で一人ひとりの体調、身体状況や表情、性格、相性を見ながらご利用者様同士の関係を深められるよう場面作りを行っている。		/	
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所されてもこれまでの関係を大切にしている。 ・遊びに来て頂ける継続的なお付き合いを心がけている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日常生活を共にすることで、言葉や表情などから本人の希望、好みを聞き把握しそれに添ったプランを考慮している。		暮らしの中で利用者の思いや希望を聞いた時は、記録に残し申し送りや連絡ノートで共有している。食事の提供方法やその人に合った支援をしながら、利用者の笑顔が見え「ここが一番」との言葉をもらい、満足を感じながら本人本位の生活が出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご本人から話を聞くようにしている。 ・プライバシーに配慮しながらご家族等から状況の把握に努め希望に沿った生活が出来るよう支援している。		/	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人ひとりのリズムを大事にし、小さいことでも残存機能を見つけ出し職員同士で情報を交換しながら維持出来るように努力している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・カンファレンスで検討している。 ・ご本人、ご家族の希望、要望を聞き計画に取り入れ学習会でモニタリング、内容を確認している。		介護計画作成に当たり、担当者が評価し他職員が利用者の様子の変化を見逃さずに観察し、その状況を知らせプランに繋げている。今出来ている事が少しでも長くより良い生活が出来るよう利用者本位の計画を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の記録はケアプランに沿って言動を記録している。 ・話し合いや申し送りで日々の状態や変化を職員間で共有しケアプランの見直しに活かしている。 ・連絡ノートを活用している。		/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>町内会の役員や民生委員、消防、近隣の方々から協力を得られるように、日頃から挨拶をして顔馴染みになりご利用者が地域の中で安心して暮らしを続けられるよう配慮している。</li> </ul>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームの協力医の他、ご家族同行でご本人のかかりつけ医の受診等、適切な医療が受けられるように支援している。</li> </ul>	<p>利用者や家族等の意向に合わせた受診を行っている。家族同行の際は利用者の様子や変化等の記録を手渡し、医師への情報提供としている。受診結果は家族等から聞き取りを行い記録で共有を図っている。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師は勤務時間外も随時連携し、必要に応じて指示を仰ぎ適切な医療が受けられるよう全職員に周知している。</li> <li>個人の病状によっては訪問看護師を受け入れ状況を細かく伝えることで適切な看護を受けて頂けるようにしている。</li> </ul>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入院時にはご本人の状況情報を的確に伝え、医療がスムーズに行えるようにしている。(介護サマリーを提出)ご家族にも説明、協力して頂きながら医療機関につなげている。</li> <li>環境の変化に伴う認知症の進行なども考慮し早期に退院出来る様になっている。</li> </ul>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人、ご家族の意向を踏まえ出来る内容を説明。全職員で取り組む体制を取っている。</li> <li>契約の際にはホームで出来る内容(看取りに関する指針)を説明している。</li> <li>終末期には主治医の指示にて訪問看護を利用したり、ホームの看護師と訪問看護師と連携し、共に取り組んでいる。</li> </ul>	<p>事業所は「看取りに関する指針」を整備し、職員の内部研修を行っている。職員は看取りの経験もあり看護師と相談ができ、また協力医師とは診療時間外や夜間でもスムーズな連携で指示や診療を受けられる体制が整っている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成している。学習会で緊急対応について学んでいる。一人ひとり不安な部分は再確認を行っている。		/	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回避難訓練を実施している。避難訓練、初期消火訓練、通報訓練も行っている。運営推進委員会の方に参加して頂き地域との協力体制を確認している。 ・消防隊員からのアドバイスを受けて知識を得ている。 ・定期的に食品等の備蓄、非常持ち出しの確認を行っている。		消防署の指導のもとに、通報・避難誘導・初期消火の防災訓練を年2回実施している。利用者の名簿や情報等を入れて非常持ち出し袋を準備しており、災害時には置き場所から持ち出せるように全職員に周知している。	夜間帯における災害時には職員の対応に限界があり、近隣の方々や地域住民からの協力が必要となるため、運営推進会議や地区総会等で理解と協力を得ることに期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人ひとりのプライバシーを尊重している。 ・ご利用者様の気持ちに沿った言葉使いや関わりができていないか職員同士で確認し合っている。		利用者一人ひとりの計画に沿って、人格や尊厳を守り言葉かけを行っている。管理者は職員に対して接遇や守秘義務等について研修を行い、利用者のプライバシー保護に努めて対応している。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日常生活の中で、ご利用者様の自己決定を大事にし、思いを引き出すように心がけている。		/	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとり体調や生活習慣に配慮しご利用者様のペースに合わせてゆっくり個別に関わっている。 ・ホームページのブログにて日々の様子をお知らせしている。		/	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・個別で支援し、季節の変化に伴う衣類や、ご本人の希望を優先した服装を心がけている。 ・外出時には身だしなみやおしゃれ(化粧、服装、整容等)に気を配っている。		/	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・季節の物、好物、行事食、外食を楽しめている。 ・買い物、料理等職員と一緒に行っていただいている。 ・ご利用者様が好まれるものを提供できるようにしている。		利用者から食べたいものを聞き取り、栄養面・カロリー等を考慮し同じものにならないように注意して献立を作っている。買い物や料理の他に、食器洗いや拭き方のできる利用者から手伝って貰うなど一連の作業に関わることで、機能維持やおいしい食事に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養バランスに注意しながら食べる量や水分をしっかりと摂取して頂いている。</li> <li>・減塩を心がけている。</li> <li>・食事の摂取状況を毎日(3回)チェック表に記入している。</li> <li>・プランにも反映させている。</li> </ul>		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎食後の口腔ケアは習慣化している。</li> <li>・洗口液の利用で汚れ、臭いの無い状態になっている。</li> <li>・義歯を夜間預かり、洗浄剤を使用して清潔保持に努めている。</li> <li>・訪問歯科と提携して週1回の往診を取り入れている。(希望者のみ治療、口腔ケア)</li> </ul>		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間と習慣を把握しトイレ誘導をすることで、トイレでの排泄が出来るよう支援している。</li> </ul>	利用者一人ひとりの排泄パターンをチェックし、それぞれの時間に合わせてトイレ誘導を行っており、失敗が少なくなり改善に繋がっている。自立に繋がった例もあるが、高齢化に伴い低下を防ぐため機能維持の確保に努めている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物繊維の多い食材や乳製品を取り入れ、水分量に配慮し体を動かす支援をしている。</li> </ul>		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体調に合わせてご本人の希望を聞きながら支援している。</li> <li>・状況に応じて二人介助など安全にも配慮している。</li> </ul>	週3回の入浴を目標に支援を行っている。入浴前には血圧・体温等の測定を行い、変化が観られる場合は再度チェックし看護師と相談のうえ入浴可否の判断をしている。脱衣室・浴室の温度や浴槽の湯温の管理で体調変化防止に努め、浴室床の滑り止めやマットを敷き転倒防止を図り安全安心に繋げている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりの体調や表情、希望を考慮してゆっくり休息が取れるよう支援している。</li> <li>・季節に合わせた室温の調整や寝具を選択し好みの明るさで休めるよう配慮している。</li> </ul>		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人記録ファイルに薬の説明書を綴じて常に確認できるようにしている。</li> <li>・服薬による変化を見逃さないようにしている。</li> <li>・薬局に分割調剤を依頼し対応している。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて支援している。</li> <li>ご利用者様が出来るような仕事をお願いし感謝の言葉を伝えている。</li> </ul>		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人の気分や希望に応じて(散歩、買い物、外食ドライブ等)外出支援に努めている。</li> <li>歩行困難でも車、車イスを利用して戸外に出かける支援をしている。</li> <li>ご家族とも一緒に出掛けられたり外食されたりしている。</li> </ul>	利用者個人の希望により、買い物やファミリーレストランでの食事にも職員と一緒に出かけ、また家族一緒の外出や外泊もしている。歩行困難な利用者も含めて全員で買い物・食事・観光等の外出支援をしている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームの立て替え金から買い物に出かけ、自分で選んだり自分で支払いをしたりと、一人ひとりの希望に合わせた支援を行なっている。</li> </ul>		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>ご本人の希望でご家族と話が出来る様に支援している。</li> <li>年賀状や暑中見舞いを出すなどの支援をしている。</li> </ul>		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>リビングとキッチンが一体化してるので料理する匂いや茶碗を洗う音等で五感の刺激になっている。</li> <li>大きな窓から差し込む光、目の前に公園があるため四季折々の風景など季節の変化を感じることが出来る。</li> <li>季節ごとの壁面装飾や行事(だんご木、ひな祭り、七夕飾り、クリスマス)などを大切にしている。</li> <li>室内の温度、湿度にも配慮し居心地良く過ごせるよう工夫している。</li> </ul>	利用者は担当職員と一緒に、毎月季節や行事に合わせた手作りの作品などを壁面等に飾って、雰囲気を作り出し楽しんでいる。テーブルの席順を相性や希望に合わせて席替えをしたり、ソファカバーの色替えなどもして明るい環境づくりを行ってる。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>共用のソファがあり自分の居心地の良い場所でご利用者様同士笑顔で談笑したり歌を歌ったりテレビを見たりとくつろぎ、ゆったりのんびり過ごして頂けるような環境の工夫を行っている。</li> <li>リビングにお茶コーナーを設け、自由に飲めるようにしている。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人が以前から使用していた机や椅子、タンスなど馴染みの物を持ち込まれ、居心地良く過ごして頂けるよう配慮している。</li> <li>・ご家族の写真や手紙、カレンダー等飾ってある。</li> <li>・居室のベッドの位置、向き、机、椅子、タンスなど、ご本人とご家族とで話し合い配置している。</li> </ul>	居室は利用者や家族等の意向や馴染みの物を持ち込みし、ベッドの向きやハンガー掛けなど思い思いに配置し、利用者それぞれが過ごしやすい居室環境となっている。	
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室前には名前を記載し、分りやすい工夫をしている。</li> <li>・廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し安全面も考慮し自立した生活を送れるよう配慮している。</li> <li>・広い廊下は自由に歩行運動が出来るようにしている。</li> </ul>	/	/